

技術の海外展開により環境課題の解決 廃棄物処理ノウハウ活用による技術開発

昭和53年創業。和歌山県北部を中心に一般家庭から大型スーパー等の浄化槽の維持管理等を行う。また紀の川市に有機性汚泥リサイクルセンターを建設し、汚泥リサイクルの循環システムを構築。水処理のエキスパートとして躍進している。また近年においてはメタン発酵システムの構築に着手。経営理念は、「資源循環のループを構築し、地域と共に歩む水再生企業となる」。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 和歌山県和歌山市西庄295番地の9 | ● 設立 | 1978年 |
| ● 電話/FAX | 073-452-9356/073-451-3056 | ● 資本金 | 3,000万円 |
| ● URL | http://voice.jp/company/ | ● 従業員数 | 52人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 吉村 英樹 | | |



メタン発電と高度排水処理を海外に展開

東南アジアで処理が課題となっている豚の糞尿を活用して、メタンガス発電を行うとともに、CO2排出量を削減。また、発電機の廃熱を利用して加温・殺菌処理を施し、処理水を豚舎の洗浄に使えるようにするゼロエミッションを実現する取組を行っている。2016年タイ、2017年パラオでJICAの中小企業海外展開調査事業に採択されるなど、マレーシア、タイ、ベトナム、パラオ等で需要を見込んでおり、まずは、マレーシア・ペナン州で実証を開始を見込んでいる。



マレーシアで予定のバイオガスプラント

先進的に研究開発を行い、様々なノウハウにより付加価値の高い製品を開発

代表者の吉村英樹氏は現在和歌山市清掃連合会の会長として地域を束ねる役割を果たす一方、(一社)和歌山県清掃連合会の常任理事として、一般廃棄物業界を取りまとめる地域団体に参加し、地域の適切な廃棄物処理、リサイクルの推進に貢献している。一方で、(株)ヴァイオスのリサイクル業務の受入れ廃棄物の処理の中で出てくる副産物品として、有機肥料「[ばいおこんぼ(和歌山県リサイクル製品認定取得)]」の施肥試験の実証として始めた有機農業を発展させ、紀の川市桃山町を中心に、農業生産法人(株)ヨシムラファームを起業、現在4町歩の農地で桃・ニンニク・ハウストマトなどを生産・出荷し、特にニンニクでは年30万個出荷し、県下の一事業所としては最大の出荷量を誇っている。



ヨシムラファームのホワイトにんにく

ごみ処理とリサイクルの同時実現システムを開発

ヴァイオスの開発した小型メタンガス発電システムは、リチウム(蓄)電池を備え、通常はエネルギーマネジメントシステムが、プラントの自給電力を賄いつつ、停電時にはBCPとして施設全体へ非常電源として供給する機構を有している。このシステムが災害時に災害現場で活躍が見込まれるとして、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会よりジャパン・レジリエンス・アワード2016優良賞を受賞している。



コンテナ式小型プラント